

平成29年度 病虫害防除情報

平成29年8月9日
発表：福島県病虫害防除所

**紋枯病が広い範囲で発生しています。
今後、上位葉鞘への病斑拡大が懸念されます。
適切な防除に努めましょう。**

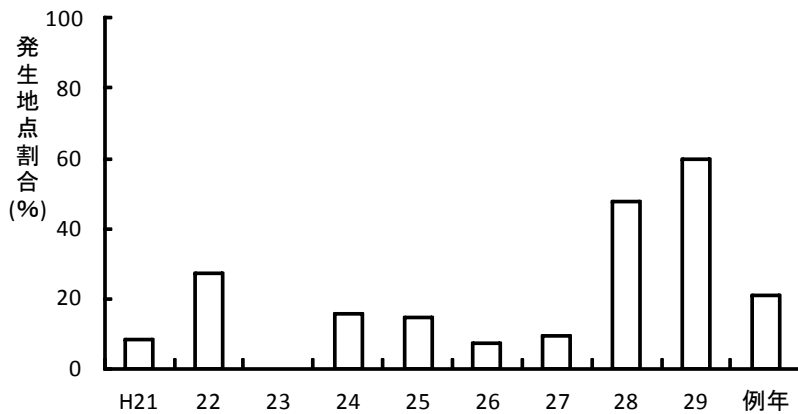
- 1 対象作物：水稲
- 2 病虫害：紋枯病
- 3 対象地域：県内全域

発生状況

- (1) 紋枯病の初発生は中通りが7/25、会津が7/26、浜通りが7/20で、中通り、会津で平年より4日、浜通りで10日早まりました。
- (2) 7月下旬に実施した巡回調査（県内42地点、672ほ場）では、調査地点のおよそ60%、調査ほ場の12%で紋枯病の病斑が確認されました。この時期としてはいずれも、極めて高い割合となっています（図1、2）。
- (3) 東北地方の1か月予報(8月3日発表)では、期間の前半は気温がかなり高く、湿った空気の影響を受けやすい気象条件になると予想されています。
- (4) 現在、8月上旬の巡回調査を実施中ですが、これまでに調査を終了した地点では発病株の増加、茎上部への病斑の垂直進展等、前回7月下旬の調査時より明らかに発生が増えています。引き続き、病勢進展に好適な気象条件が継続するとみられることから、今後のさらなる発生拡大が懸念されます。

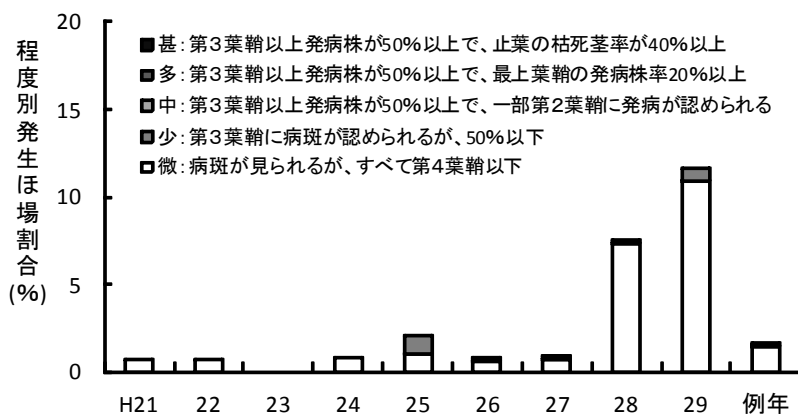
防除対策

- (1) 紋枯病は、ほ場によって発生程度が異なる場合があります。各ほ場の発病程度を把握し、適切な防除に努めてください。
- (2) ほ場ごとの発生程度を確認し、発生が目立つ場合は薬剤防除を実施してください。
- (3) 病斑が上位葉鞘に達すると、減収被害が大きくなります。第3葉鞘（止葉が第1葉）に病斑が見られたら早急に薬剤散布を実施してください。
- (4) 表1に示す茎葉散布剤を株元に届くように散布してください。



※ 例年は、H21～28年の平均

図1 紋枯病の発生地点割合 (7月下旬巡回調査)



※ 例年は、H21～28年の平均

図2 紋枯病の発生程度別ほ場割合 (7月下旬巡回調査)

表1 紋枯病の防除薬剤 (茎葉散布剤)

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	施用適期 (使用時期)	使用濃度、10a当たり使用量 (散布液量)
アミスターエイト	アゾキシストロビン	C3	穂ばらみ期 ～穂揃期 (収穫14日前まで)	1000～1500倍 (100～200L/10a)
バリダシン液剤5	バリダマイシン	U18		1000倍 (60～150L/10a)
モンカットファイン粉剤20DL	フルトラニル	C2		3～4kg

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課 (病害虫防除所) まで御連絡ください (TEL 024-958-1709、FAX 024-958-1727)。
- 本情報は、福島県病害虫防除所のホームページ (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>) でもご覧になれます。